

第27回浜松市花と緑のコンクール 各部門 最優秀賞・特別賞 作品一覧

第27回浜松市花と緑のコンクールにおける、各部門それぞれの最優秀賞と特別賞の作品とその作品コメントの一覧です。

各部門 最優秀賞

個人小規模面積の部 清水恵子さん

バラを中心とした小さな庭

自分にできるDIYと、庭の花・苗木で、相乗効果をもたせ、一体感のある庭造りを目指しました。手造りモルタル小屋とつるバラの調和がアピールポイントです。また、宿根草などを増やししながら、廃材を使ったオーナメントを作ったりと、なるべくローコストで一年中楽しめるように意識しました。



個人小規模面積の部 栗村浩平さん

「花と緑がいっぱい」の癒し空間

沿道からの景観を重視したサスティナブルな庭づくりに取り組んでいます。冬でも枯れることがなく、美しいリーフの常緑耐寒性多年草と低木をメインに、ボリュームのある一年草を自家育苗して、年2~3回植え替えます。四季を通して、多彩な植物が魅せる明るく軽やかな雰囲気草姿が奥行きを感じさせる庭は、「花と緑がいっぱい」の癒し空間です。また、レイズドベッド花壇を高さ70cmに改良し、安心安全に加え、ローメンテナンスな庭づくりを再現しました。



企業・店舗の部 医療法人社団一穂会西山病院

花と緑に囲まれた安らぎの空間

病院の各病棟に沿った緑地帯、ベランダ、中庭等といったロケーションに合わせたデザインを考え、植付を実施しました。花やみどりに話題が集まり、病院の利用者や職員相互のコミュニケーションの場となっています。



地域の部

フラワータウン和地

環境美化で癒しと安らぎを

花壇のデザインについては幹線道路沿いが多いため車内からでも良く見えるようにボリュームのあるルピナスを中心に植え、周りにはソネット系(草丈の高い)の金魚草を配置。ポイントとしてナデシコを植え、全体をパンジーでまとめました。



学校の部

庄内学園

「キープスマイル ステイポジティブ！」

(いつも笑顔で、前向きな気持ちで)

庄内学園は、年間を通して「花いっぱい大作戦」を実施しており、小学生と中学生、地域住民、保護者、教職員で心を込めて約15種類の花を育てています。

庄内学園の今年度の目標は、「キープスマイル、ステイポジティブ！」で子どもたちは笑顔を忘れず、自分の目標に向かって進む努力をしています。子どもたちが、目標を達成したかのような、色とりどりの花が咲き誇りました。



協働センター・公共施設の部

みどりーなふれあい花壇

安らぎとふれあいの花壇

苗の小さい時、猫やもぐらに入られ、植替えの必要がありました。

細かいデザインで植付に苦労しました。園内を散歩している方々にお花の説明をし、育てることの楽しさを話しています。

中の花壇にリコリスや水仙、ジャーマンアイリス等の宿根草を使い、ローメンテナンス化も意識しています。



緑のカーテンの部

あんしんの里デイサービスセンター

朝顔がカラフルなグリーンカーテン

2mの幅で朝顔とゴーヤを交互に植え、カラフルな朝顔と緑のゴーヤのコントラストを楽しみました。朝顔やゴーヤは、デイサービスの利用者様と一緒に種から育て、それぞれ横に伸びて交差してしまわないよう意識しました。朝顔は日中の間咲いている西洋朝顔を選び、利用者様も利用中に楽しめるようにしました。室内からゴーヤと朝顔が揺れている様子を見ていただきながら、涼しさと心の安らぎを感じていただいています。



コミュニティ特別賞

企業・店舗の部

社会福祉法人復泉会ワークショップくるみ

みんなで咲かせた2000本のひまわり
～暑さに負けず、笑顔も満開～

168㎡一面に植わったひまわりを道行く人が立ち止まってご観覧していただけるような花壇づくりを行っております。土作りでは地元肥料屋さん、管理面では清掃工場の方、作業面では事業所の方々といたったように、作業行程毎に様々な方にご協力をいただきました。結束のつながりです。



地域の部

フラワータウン和地

環境美化で癒しと安らぎを

毎年小学2年生全員で桜台公園のフラワーポット120個(1440本)に花苗を植えて頂き、花と緑を育てる大切さを学んでいただいています。また、和地協働センター祭りに参加、ハンギングバスケット作成講習会及び作品の展示、簡単にできる苔玉づくりコーナー、花とみd理の推進と資源の大切さをアピールするためアルミ缶と花苗の交換を実施しております。花と緑のまち・浜松の啓発活動に努めています。



サステナブル特別賞

個人 大規模面積の部

今村文、今村ゆかり

Sustainable Development "Gardens" 2025

一年草中心の花盛りの庭ではなく、宿根草や樹木が四季の移ろいを見せてくれる庭を目指しています。ローメンテナンスのみを志向するのではなく、人が植物の生育を助け、愛でることを楽しみ、人も植物も生き生きとすることが、持続可能な庭の姿であると考えます。サステナブルな取組として、枯葉や剪定枝を堆肥にするバイオネストの設置、フェンスへの剪定枝の活用、ノンストレスガーデン工法（防草シートを敷き、植栽部分にのみ穴をあけての植栽）の採用などを実施しております。



個人 大規模面積の部

茂津目康則さん

バラが主役の色と香りの癒しのガーデン

休耕地に、農業用ハウスの廃材を利用してバラのアーチやフェンス、オベリスクを作りました。通路には、剪定した庭木をチップにして敷き、やがて土に還るようにしています。草花は種や株分けで増やしています。また、希望があればお譲りするようにし、花友の輪を広げています。

